

表式 4 - 1)



水質日本一を誇る川辺川のほとりでつくられる「相良茶」

大屋根を相良茶の美しい茶葉に見立てた「さがらリーフハウス」を提案します



自然から人を守り 自然の力を利用する

① 大きな日陰をつくり、景観に溶け込むおおらかな屋根
「茶葉」がふわりと浮遊しているような、軒先を低く抑えた大屋根が、利用者を真夏の時期の厳しい日射から守ります。そのおおらかなシルエットは、自然に抱かれた相良村の景観にやさしく溶け込みます。

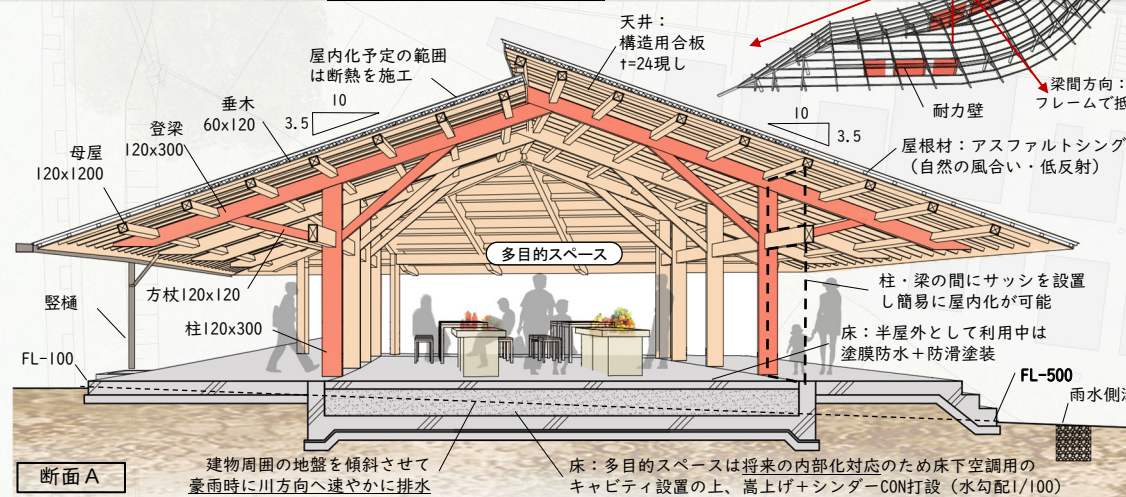
② 将来の変更に対応しやすい、フレキシブルなY字柱の合成ラーメン構造

フレームに鉛直力と水平力を負担させる、耐力壁がほとんど不要なY字柱の合成ラーメン構造によって深い軒を実現し、開放感と空間の可変性を高めます。多目的スペースの屋内化や民間事業者による増築棟など、予見し難い将来ニーズに対応する、フレキシブルな構造システムです。

(構造モデル)

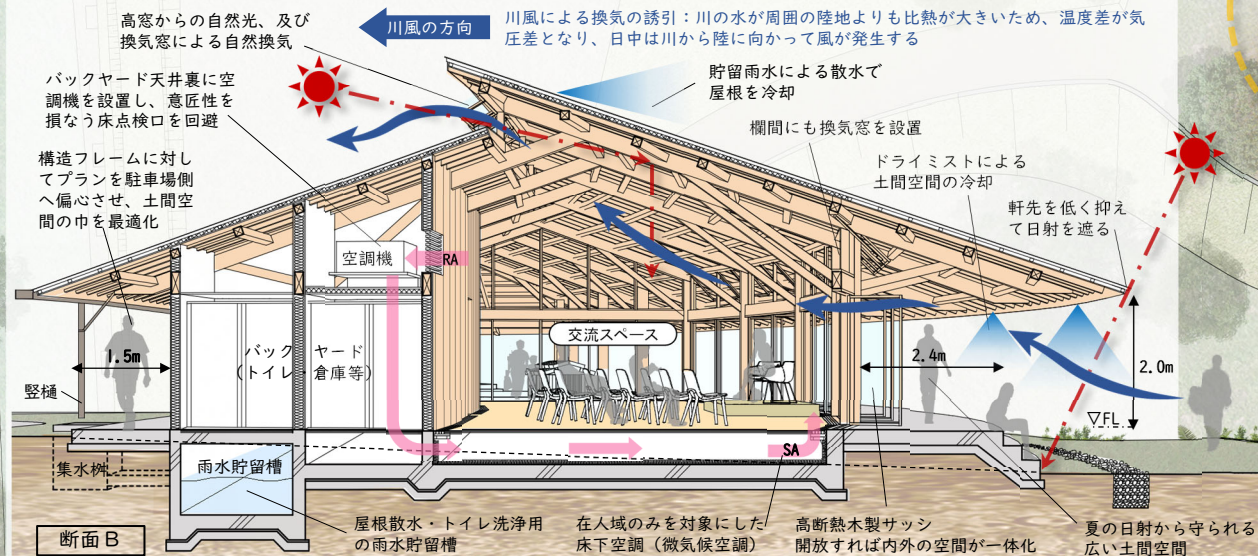
桁行方向：
フレーム+壁で抵抗

剛芯



③ 自然の力を利用したパッシブデザインによる省エネルギー

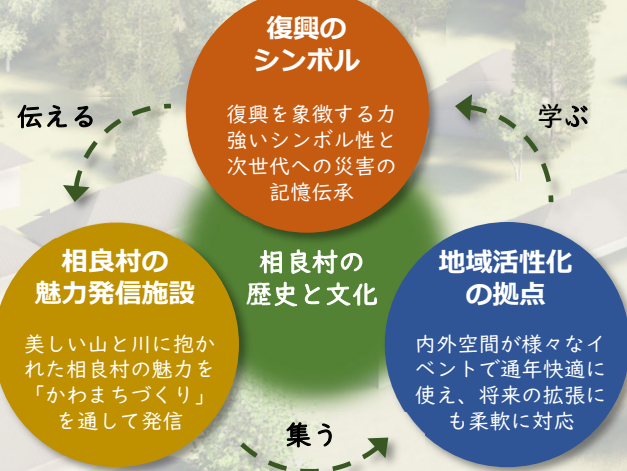
外壁から大きく張り出した屋根が熱負荷を低減するほか、高窓からの自然光と自然換気、貯留雨水による屋根の冷却など、自然の力を最大限に利用したパッシブデザインを導入します。



SAGARA LEAF HOUSE

(様式4-2)

伝える・集う・学ぶ リーフハウス、未来へ繋ぐ三役



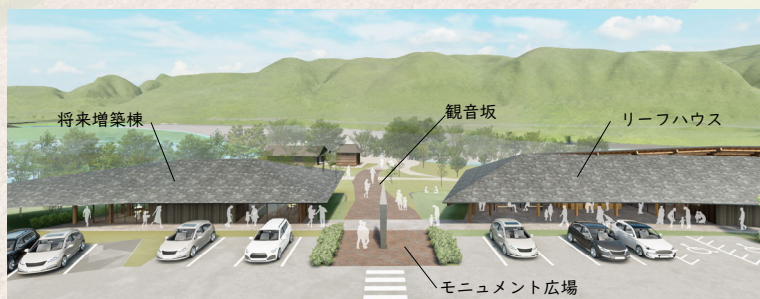
リーフハウスが担う3つの役割は、相良村の歴史と文化に根ざすものでありたいと考えました。地域のランドマークを敬い、過去の困難に学びながら未来を語り、村の魅力を全国へ発信する、リーフハウスはこのような場でありたいと願い下記の3点をご提案します。

① 廻り観音への「観音坂」を施設全体の主軸とする



昔から地域の象徴として親しまれる「廻り観音」を施設全体の中心に位置付け、駐車場のほぼ中央に位置する既存の坂道を整備します。「観音坂」とネーミングして強い軸線をつくり、アクセス性とシンボル性を高めます。

◁ 現状の廻り観音の案内札と坂道



② 災害を風化させない記憶伝承モニュメント

甚大な被害をもたらした2020年7月の水害の記憶をモニュメントとして設置します。このモニュメントは施設の目印となり、利用者が必ず目にすることで記憶の伝承と防災意識の啓発に役立ちます。



③ 河童の墓への歩行者ルートを整備



「河童の墓」を地域の貴重な観光資源として捉え、駐車場から安全に歩ける歩行者ルートを整備することで、廻り観音及び水辺空間全体との一体感をつくります。

◁ 現状は未整備の「河童の墓」への動線

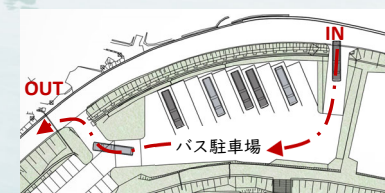


安全・スムーズなバス動線



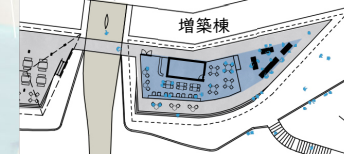
一般車駐車場を大型バスが通過するのを避けるため、既存の坂道を利用したバス専用出口スロープを整備します。バス10台をスムーズに入出庫させるために、斜め45度駐車を提案します。

◁ 既存の坂道



景観を維持しながらフレキシブルに増築

将来増築棟は運営者、運営内容によって規模・位置が変わりますが、いずれの場合もリーフハウスの屋根形状を踏襲し、意匠的な一体感を維持することとします。一棟又は二棟のパターンをスタディしました。



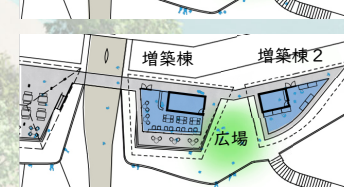
■最大規模で増築

大型のショップ・カフェ等をリーフハウスと対を成すように配置する案です。



■小増築+広場

小さめに増築して用地の奥側に更なる増築の可能性を残し、当面は広場として使います。



■小増築+広場+小増築

無理のない投資額で、ニーズに合わせて段階的に増築する場合は棟の間に広場ができます。

「地域の行燈」となる夜景の演出

キャンプやイベントで夜間も頻繁に利用されるため、夜景も重視します。照明デザイナーを設計チームに入れて効果的なライトアップを検討し、リーフハウスが「地域の行燈」となる演出を行います。



徹底したイニシャルコストと維持管理費の低減

上限予算を念頭にコストがかからない仕様設定で設計を進め、基本設計・概算見積で予算適合を確認しながら継続的にコストコントロールします。プロボ時点での試算は下記となりますが、今後設計チームで知恵を絞って更なるコスト低減を目指します。

■必要な機能を一棟に集約

仕様書で求められている諸機能を、複数棟に分散させずに一棟に集約して建設コストを最小化します。

■空調エリア限定による光熱費の低減

「廻り土間」や「炊事・鮎焼場」等、「非空調・半屋外」空間を主としたプランにより、将来屋内化の可能性を残しながら初期コストを下げます。大屋根が夏場の冷房負荷を低減するほか、自然採光・換気、貯留雨水による屋根冷却などのパッシブデザインで光熱費を低減します。

■躯体と木質系内外装で県産流通材を利用

躯体は集成材を使わず、県内で生産・加工した流通材のみを使用してコスト低減を図ります。構造設計は熊本県で大型木造建築の設計実績がある構造設計事務所が担当し、現地の特性を踏まえた材料選定を行います。

■既存地形の利用で土木工事費を抑制

提案にある「観音坂」や「バス専用スロープ」は、既存の地形を最大限に活用することで、土木工事においても工事費の抑制を図るご提案です。

仮設工事	3,600,000	3.0%
基礎工事	8,400,000	7.0%
木工事	36,000,000	30.0%
屋根工事	7,200,000	6.0%
金属工事	1,800,000	1.5%
建具工事	12,600,000	10.5%
仕上工事	14,400,000	12.0%
造作工事	1,800,000	1.5%
防水断熱工事	3,000,000	2.5%
電気工事	4,800,000	4.0%
設備工事	14,400,000	12.0%
諸経費	12,000,000	10.0%
合計(税抜)	120,000,000	100.0%
消費税	12,000,000	
合計(税込)	132,000,000	

※仕様書に記載の別途工事は含みません。また、提案書に記載の将来増築棟、水害伝承モニュメントは別途工事となります。

概算工事費：約132百万円